

令和5年度

ギャンブル障害および ギャンブル関連問題の実態調査 調査B 結果概要

独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター
古賀佳樹、遠山朋海、新田千枝、柴山笑凜、
浦山悠子、柴崎萌未、松下幸生

調査B 依存の問題で相談機関を利用された方へのアンケート

- **目的：** ギャンブル等依存の問題を抱えている者（当事者・家族）の特徴やギャンブル関連問題の実態把握
- **調査対象：** 依存の問題で公的相談機関に来訪した当事者とその家族
※精神保健福祉センター65か所、保健所54か所の協力が得られた
- **調査手法：** 相談機関職員から来訪者に調査案内および調査票を配布。回答方法は郵送 or インターネット
- **配布・回収時期：** 令和5年9月1日～令和6年3月31日
- **配布数：** 当事者票538票、家族票569票
- **有効回答数：** 当事者票288票、家族票382票

- **調査項目：**

当事者票

- 基本属性（性別、年齢、婚姻状況、同居者、職業、年収など）
- 依存問題の種類、相談に来た経緯、相談への抵抗感
- ギャンブル行動（過去1年ギャンブル経験の有無、ギャンブルの種類、頻度、使う金額など）

- ギャンブル障害のスクリーニングテスト（PGSI）
- クロスアディクション
アルコール使用障害のスクリーニングテスト（AUDIT-C）
ゲーム障害のスクリーニングテスト（Games Test）

- ギャンブル関連問題（抱える困難、抑うつ・不安尺度、希死念慮・自殺企図の有無、触法行為の有無、社会機能の障害）

- 治療機関や自助グループ、回復支援施設、生活支援利用制度の有無、その他相談機関の利用経験に関する質問

家族票

【様々な依存問題 家族共通の質問】

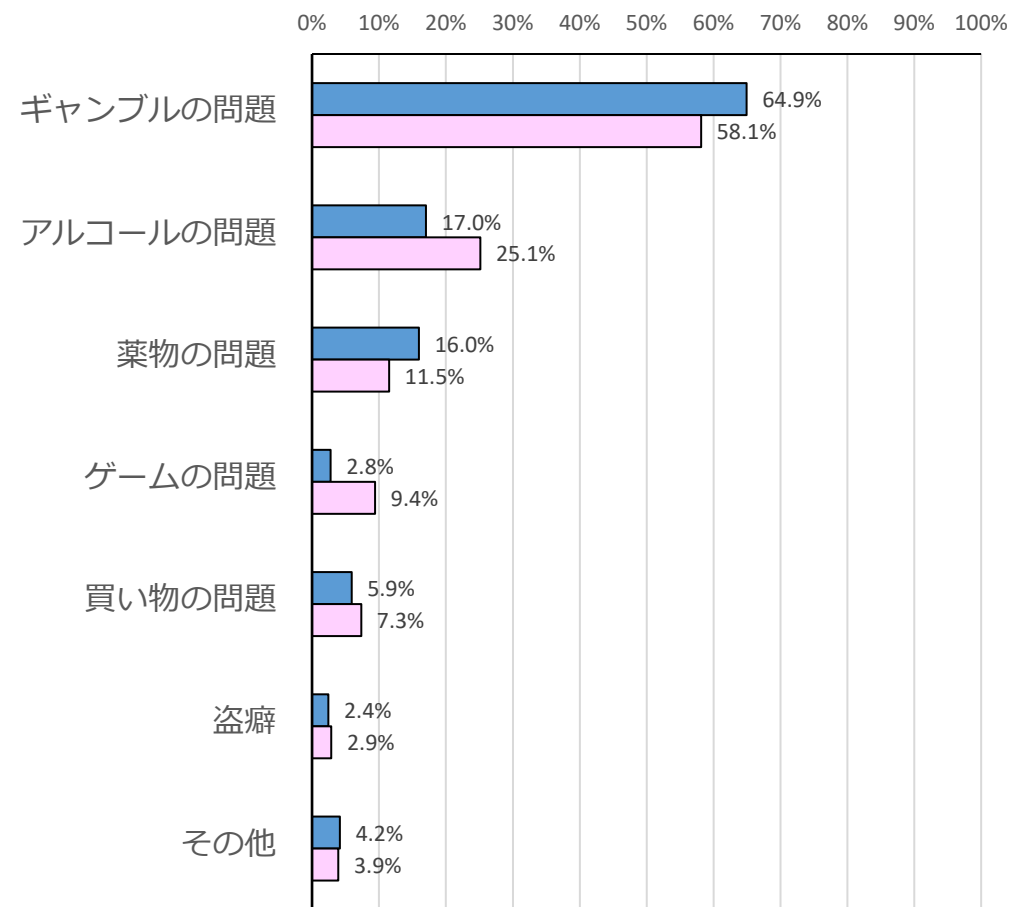
- 基本属性（性別、年齢、婚姻状況、同居者、職業など）
- 当事者の情報（関係性、依存問題の種類など）
- 依存問題の種類、相談に来た経緯、相談への抵抗感
- 依存関連問題（抑うつ・不安尺度、希死念慮・自殺企図の有無、触法行為の有無、社会機能の障害、負担感）
- 援助要請スタイル、依存症者へのスティグマ
- 今後求める支援

【ギャンブル問題を抱える当事者のご家族への質問】

- 問題となっているギャンブルの種類
- 家族がギャンブル問題から受けた影響
- 借金等の有無

依存・嗜癖問題の種類	当事者	家族
ギャンブルの問題	187	222
アルコールの問題	49	96
薬物の問題	46	44
ゲームの問題	8	36
買い物の問題	17	28
盗癖	7	11
その他	12	15

図表1 相談者の抱える依存・嗜癖問題の種類



■本人 □家族

※本人の割合の分母:n=288

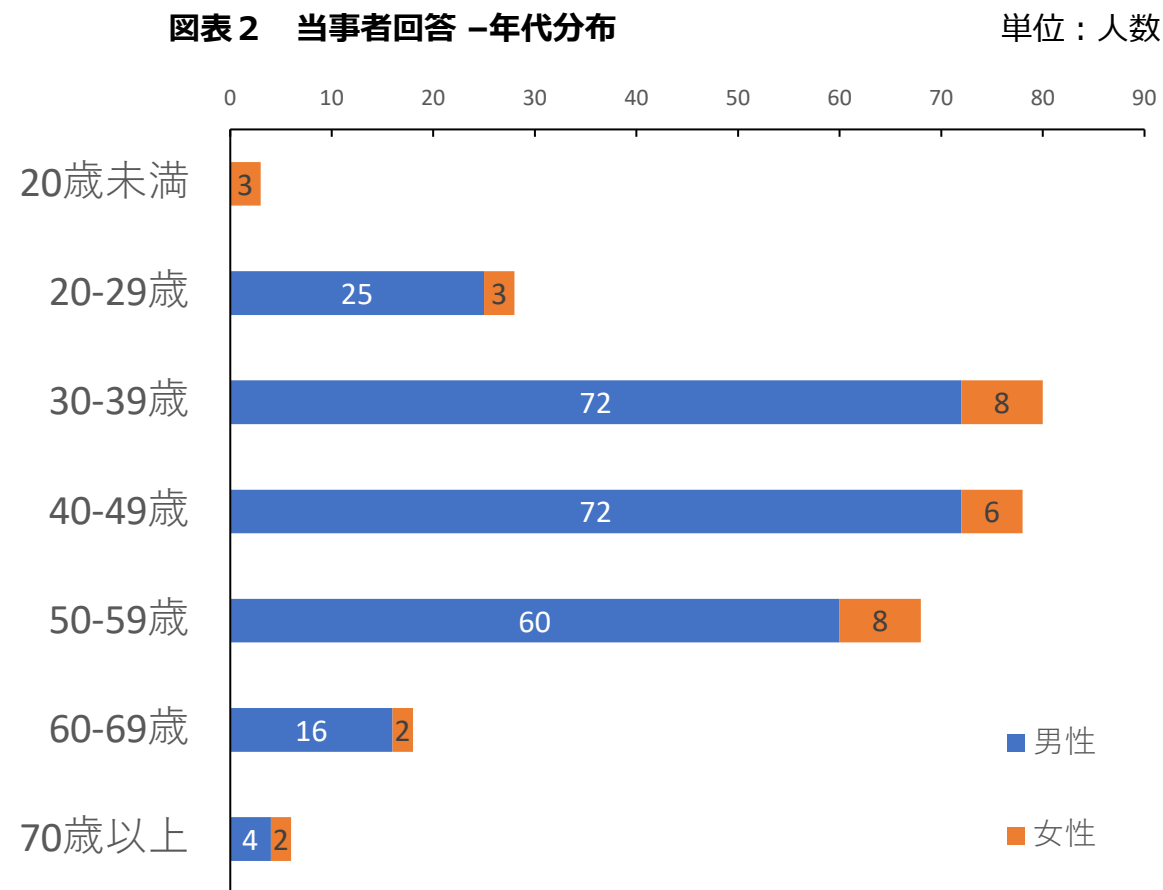
※家族の割合の分母:n=382

※本人のその他の内容:タバコ, ネット, 関係性依存, 性の問題

※家族のその他の内容:タバコ, ネット, 関係性依存, 性の問題, 摂食障害, オークション

調査B 当事者回答 ～性別、年齢、職業などの背景情報と群分け～

項目※1	男性	女性
人数	251名 (88.7%)	32名 (11.3%)
平均年齢※2	43.9歳 (±11.8)	42.7歳 (±16.5)
就業者	217名 (80.1%)	
失業・求職者	30名 (10.5%)	
既婚者	134名 (46.9%)	
年収※3	400万円以上～ 600万円未満	
相談支援機関の 利用状況※4	第1位：「公的な相談機関」39.6% 第2位：「病院やクリニック受診」37.5% 第3位：「自助グループ」24.7% ----- 「あてはまるものはない」27.9%	



※1 項目ごとに欠損値があるため全体数が異なる

※2 カッコ内は標準偏差

※3 度数分布で、人数割合の最も高い年収階級

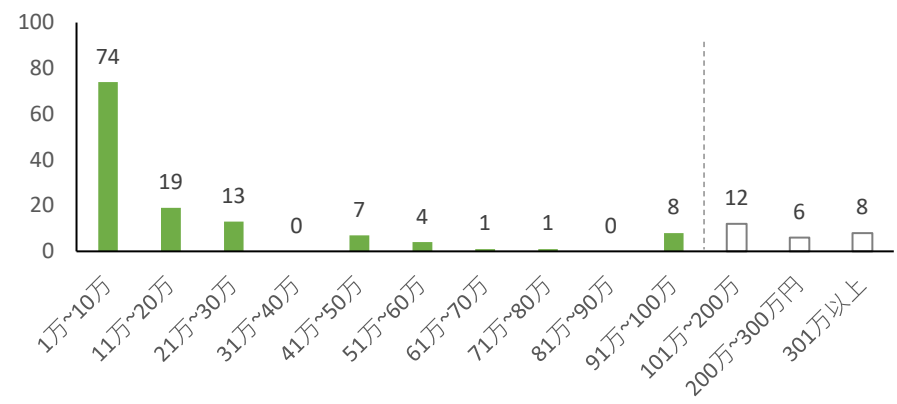
※4 男女で利用状況の順位に違いはなかった

調査B 当事者回答 ～ギャンブル開始の状況、借金額、相談支援につながるまで～

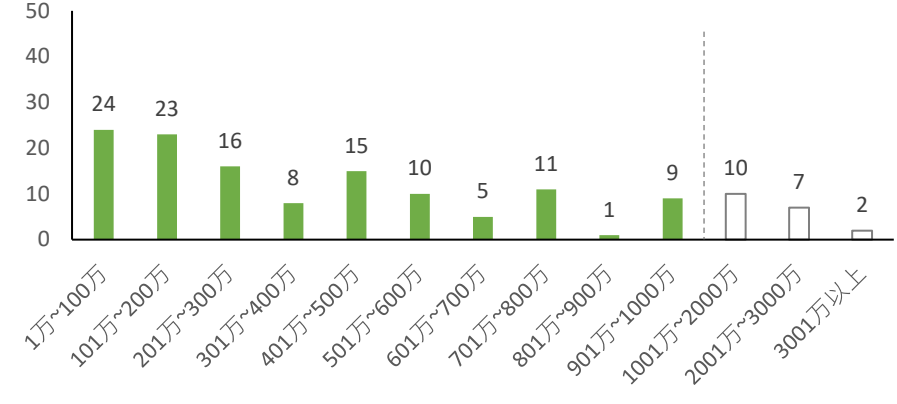
項目	ギャンブル問題を抱える相談者※1
ギャンブル開始年齢※2	20.2歳
月1回以上の習慣ギャンブル開始年齢※2	22.7歳
1カ月あたりのギャンブル使用金額※3	中央値：15万円 平均値：73万円
ギャンブルに関連した借金経験	借金の経験あり：141名(89.8%) 借金の経験なし：16名(10.2%)
ギャンブルに関連した借金※3	中央値：400万円 平均値：654万円
ギャンブル資金の用意	第1位：「自分の貯金」55.7% 第2位：「消費者金融やサラ金等」43.2% 第3位：「後払い決済（クレカ等）」35.9%
依存の問題に気づいてから病院や相談機関を利用するまでの期間	平均2.9年（34.5か月）
相談機関につながったきっかけ	第1位：「家族にすすめられた」51.2% 第2位：「自分からHPなどで探した」32.5% 第3位：「医療機関ですすめられた」13.8%

※1 ギャンブル問題を抱える相談者のみを対象に集計した
 ※2 平均年齢
 ※3 一円未満の数値を四捨五入した値を示す

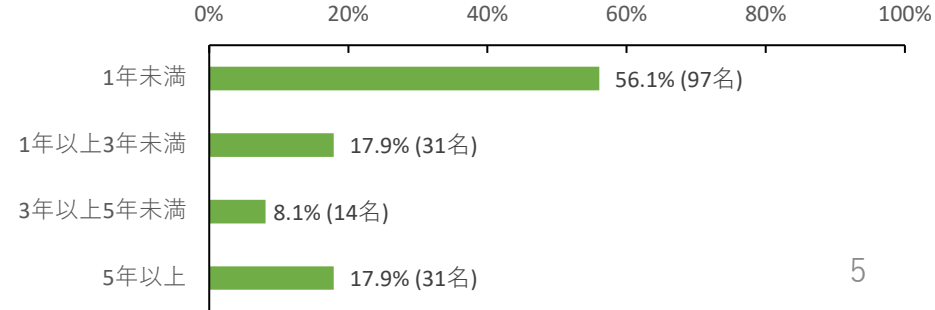
図表3 1カ月当たりのギャンブル使用金額 -当事者



図表4 ギャンブルに関連した借金 -当事者



図表5 相談機関につながるまでの期間 -当事者

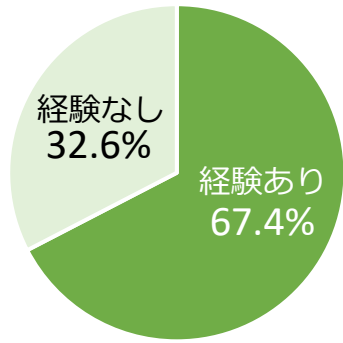


調査B 当事者回答 ～過去1年のギャンブル経験、問題となっているギャンブル～

<本調査におけるギャンブル種の定義>

パチンコ、パチスロ、競馬、競輪、オートレース、宝くじ、スポーツ振興くじ、証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX、麻雀、海外のカジノ、オンラインカジノなど

図表6 過去1年間のギャンブル経験の有無



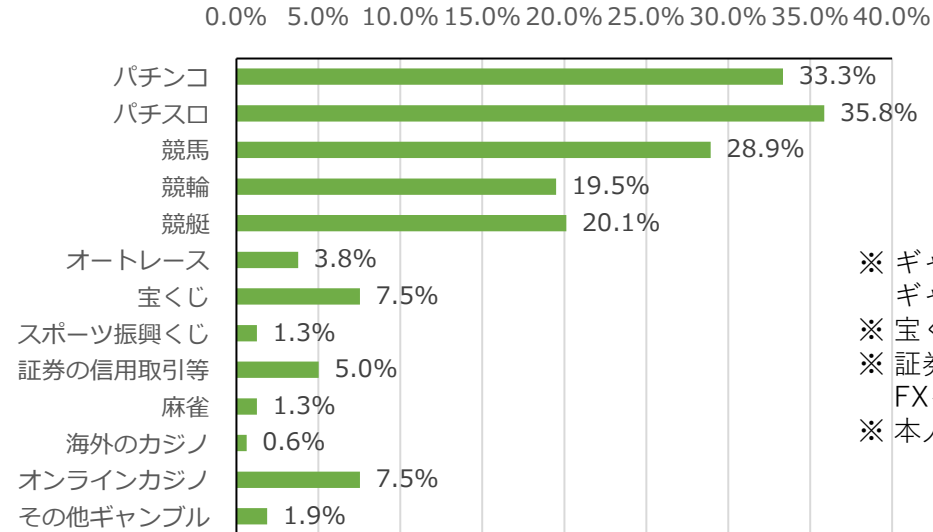
図表7 過去1年間のギャンブルをしていない理由

理由	人数
医療機関で治療を受けてやめたから	11名(55.0%)
自助グループに通ってやめたから	8名(40.0%)
特に理由はない	1名(5.0%)
ギャンブル以外の楽しみをみつけたから	9名(45.0%)
お金がないから	5名(25.0%)
ギャンブルに興味がないから	1名(5.0%)
これまで全くギャンブルをしたことがない	0名(0.0%)
その他	4名(20.0%)

※1 ギャンブル問題を抱える相談者のみを対象に集計した

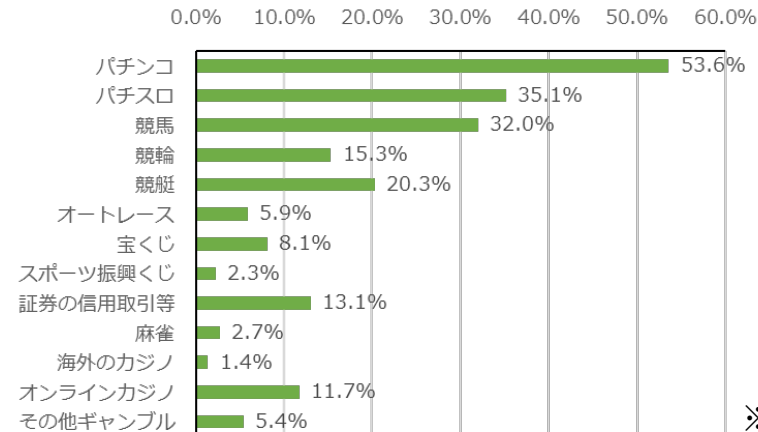
- 過去1年間で最もお金を使ったギャンブル： パチスロ、パチンコ、競馬の順に多い
(家族では、パチンコ、パチスロ、競馬の順)

図表8 問題となっているギャンブルの種類 (当事者)



※ ギャンブルの問題を抱えており、過去1年間にギャンブル経験のあるものを集計対象とした
 ※ 宝くじにはロト・ナンバーズ等も含む
 ※ 証券の信用取引等には先物取引市場への投資、FXを含む
 ※ 本人の割合の分母：n=159

図表9 問題となっているギャンブルの種類 (家族)



※ 家族の割合の分母：n=222

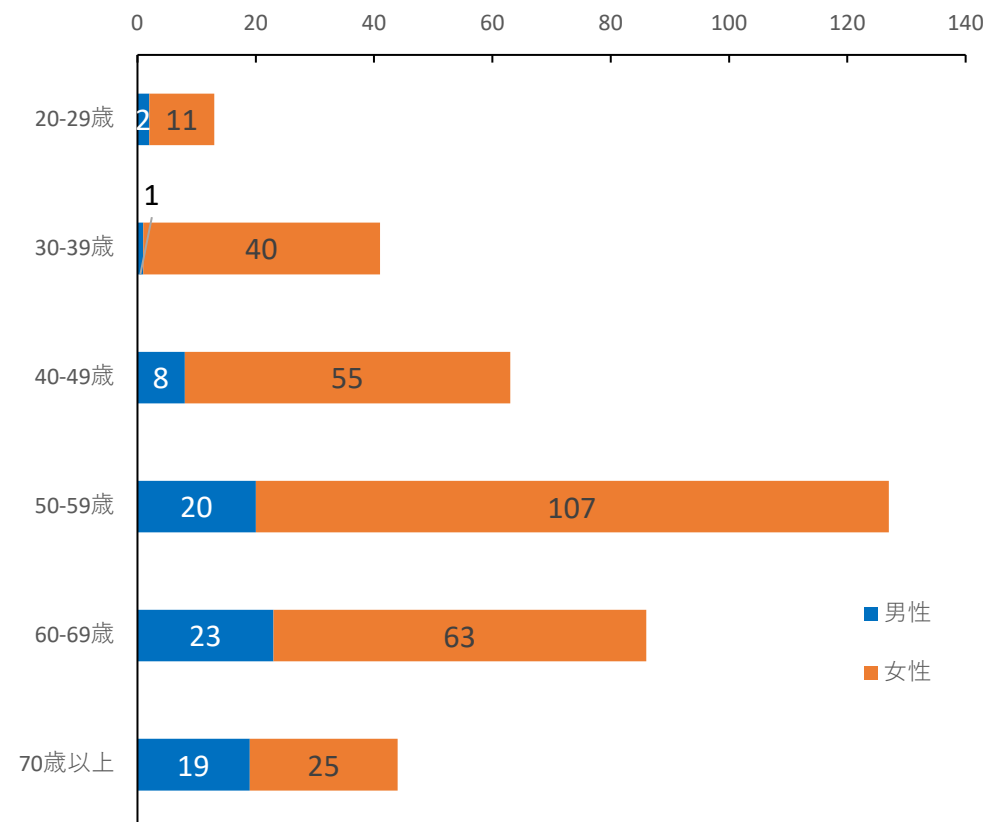
調査B 家族回答 ～性別、年齢、職業などの背景情報と群分け～

項目※1	男性	女性
人数	73名 (19.5%)	302名 (80.5%)
平均年齢※2	61.2歳 (±11.7)	52.9歳 (±12.1)
当事者との関係性	第1位：「わたしの子ども」51.4% 第2位：「わたしの配偶者」35.1% 第3位：「わたしの兄弟姉妹」6.9%	
就業者	283名 (74.1%)	
失業・求職者	4名 (1.0%)	
既婚者	309名 (81.1%)	
相談支援機関の利用状況※3	第1位：「公的な相談機関」72.0% 第2位：「病院やクリニック受診」43.2% 第3位：「自助グループ」24.8% ----- 「あてはまるものはない」10.7%	

※1 項目ごとに欠損値があるため全体数が異なる
 ※2 カッコ内は標準偏差
 ※3 男女で利用状況の順位に違いはなかった

図表10 家族回答 -年代分布

単位：人数

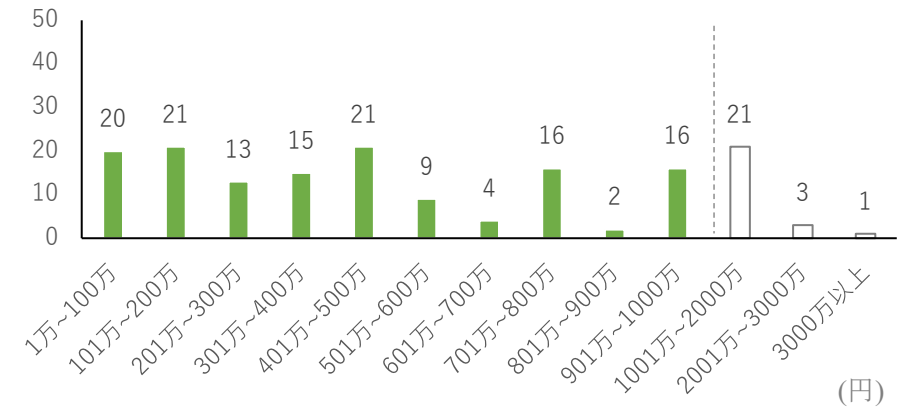


調査B 家族回答 ～ギャンブル関連の借金、立て替え額、相談支援につながるまで～

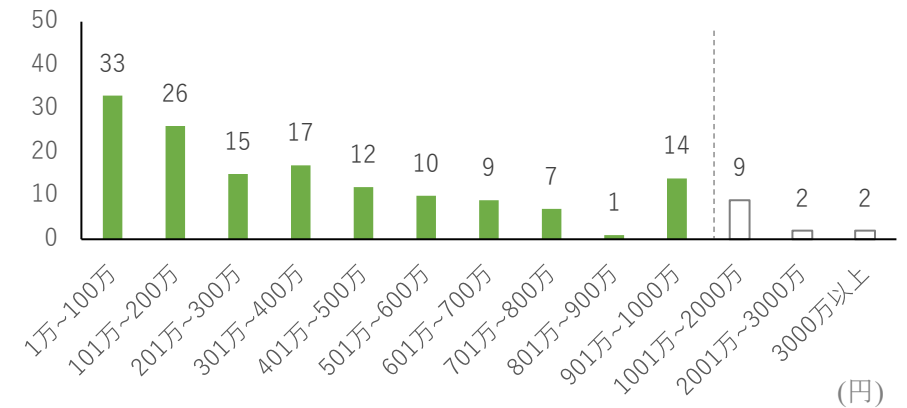
項目	ギャンブル問題を抱える相談者※1
ギャンブルに関連した借金経験	借金の経験あり：163名(74.1%) 借金の経験なし：12名(5.5%) わからない：45名(20.5%)
ギャンブルに関連した借金※2	中央値：500万円 平均値：680万円
借金の立て替え経験	借金立替の経験あり：157名(72.4%) 借金立替の経験なし：34名(15.7%) わからない：26名(12.0%)
借金の立て替え額※2	中央値：389万円 平均値：557万円
依存の問題に気づいてから病院や相談機関を利用するまでの期間	平均3.5年（41.5か月）
相談機関につながったきっかけ	第1位：「自分からHPなどで探した」51.2% 第2位：「家族にすすめられた」11.2% 「医療機関ですすめられた」11.2%

※1 ギャンブル問題を抱える相談者のみを対象に集計した
 ※2 一万円未満の数値を四捨五入した値を示す

図表11 ギャンブルに関連した借金 - 家族



図表12 借金の立て替え額 - 家族



図表13 相談機関につながるまでの期間 - 家族

